

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	大分こども発達支援センター やすらぎ(放課後等デイサービス)		
○保護者評価実施期間	令和6年11月11日		～ 令和6年12月13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11人	(回答者数) 8人
○従業者評価実施期間	令和6年11月11日		～ 令和6年12月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数) 7人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月9日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部屋が広いこと、それぞれのこどもの空間を確保することができる。</li> <li>・排泄介助や更衣の時など、プライバシーの保護を徹底している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カーペットやテーブルなどを設置し、活動内容や子どもの状況に合わせた過ごし方ができるようにしている。</li> <li>・同性介助を行うことができるような職員配置を行ったり、排泄介助や更衣時は、カーテンやパーテーションを使って個人のスペースが確保できるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の突発的な休みなどで同性介助が難しい時は、他部署から助っ人に来てもらえるような体制を作っていく。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所内で、児童発達支援から放課後等デイサービスへの移行や放課後等デイサービスから生活介護への移行ができる。</li> <li>・幼児期から継続した支援ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の記録を残し、サービス移行後も見返すことができるようにしている。</li> <li>・幼児期からの発達や基礎疾患を踏まえた個別支援計画を作成している。</li> <li>・特定の支援者ではなく、様々な支援者がそれぞれの子どもに関り、かかわった時の情報を共有している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の記録の内容を、個別支援計画の内容に沿ったものになるようにしていく。</li> <li>・幼児期からの発達を踏まえたカンファレンスを行い、学童期の支援を充実させていく。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後は学校に迎えに行き、降園は保護者による送迎のため、保護者と学校からの情報を直接聞くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校に迎えに行った時は、先生に学校での様子を確認している。</li> <li>・保護者が迎えに来たときには家庭での様子を確認したり、やすらぎでの様子を伝えたりしている。気になることがある時は、保護者に了承を得て学校との連携を図るようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や保護者から聞いたことや子どもの様子について得た情報は、必ず全職員に伝えて共有する。</li> </ul>

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物の老朽化が進んでおり、床や壁に亀裂や汚れが目立つ場所がある。</li> <li>・建物の構造がL字になっているため、死角がしやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築年数が経っており、仕方ない部分もある。</li> <li>・建物の設計上、仕方ない部分もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全上、問題がある場合は、速やかに上司に報告し対応してもらう。</li> <li>・フロア内に死角がでないよう、職員が意識して立ち位置を考慮したり声かけを行ったりしながら安全管理を行う。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の事業を同時におこなっているため、時間によっては業務(医療的処置・バス送迎・排泄介助など)が重なることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日によって、それぞれの事業の利用人数に変動があることや、限られた職員で複数の事業をおこなっているため。</li> <li>・先を見越しての動きができていない時もあり、業務が重なることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの時間であっても、丁寧に支援することができるように、他部署との連携を図り職員の配置を適切に行うようにする。</li> <li>・職員間で声をかけあいながら、業務が一定時間に集中しないようにする。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製作物や保育環境の整備、保護者への通信など直接処遇以外の業務をする時間が充分にとりにくい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の勤務時間と開所時間に差がないため。</li> <li>・業務に優先順位をつけ、時間を有効に使うことができていない部分もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・優先するべき業務を職員間で共有しておき、療育現場の状況を見ながら、可能な時はそちらの業務を行うようにする。</li> <li>・職員間で声をかけあいながら、業務を遂行していく。</li> </ul>

公表

## 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 大分子ども発達支援センター やすらぎ（放課後等デイサービス）

公表日 令和7年3月1日

利用児童数

8 / 11

回収数

73%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	8					
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	8					
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	8					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	8					
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	8					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	7			1	支援プログラムを見ていないためわからない	
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	8					
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	8					
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	8					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	5	2		1	活動プログラムがわからない	活動は、利用児さんの人数や状態をみながら、設定しています。内容については、5領域の項目に偏りがないように考慮して設定しています。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	1	1	2	4		感染症対策の観点から、他施設の子どもとの交流は行っていません。法人内の他事業所とは、月に一回のイベント時に交流をするようにしています。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	8					
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	8					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	5			3		今年度より、つばさ学園で家族支援プログラムが始まっています。今年度の開催状況を踏まえ、ご案内していこうと思います。
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	8					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	6	1		1		定期的な面談や助言などは行っていませんが、要望があれば、面談や助言を行うようにしています。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	8					
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2	1	1	4	イベントがなされているかわからない	土曜日に開催しているイベントに、希望があれば、保護者や兄弟児も参加できるようにしています。	

	19	子どもや家族からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	7			1	相談申し入れをしたことがないためわからない	相談や申し入れがあったときは、体制を整え対応するようにしています。子どもや保護者とは、相談しやすい関係や雰囲気づくりを意識して行うようにしています。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	8					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	5	1		1	記載なし 1	翌月の行事予定については、利用申込を通じてご案内するようにしています。イベントの様子などについては、法人のホームページ内で発信するようにしています。自己評価に関しても、集計後法人ホームページに記載しています。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	8					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	4			4	訓練をされていると思うが、いつ行われているのかわからない	感染症対策委員会や危機管理委員会を設置し、各マニュアルの作成を行っています。今後、保護者への周知や説明を行っていききたいと思います。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	5			3	訓練をされていると思うが、いつ行われているのかわからない	火災や地震、土砂崩れなどを想定した避難訓練を毎月行っています。訓練時の様子の伝え方については、今後検討していききたいと思います。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	7			1		送迎バス乗車時における安全については、周知させてもらっています。支援時の安全については、今後周知の方法について検討していこうと思います。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	8					
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	8					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	8					
	29	事業所の支援に満足していますか。	8					

事業所名	大分こども発達支援センター やすらぎ（放課後等デイサービス）				公表日	令和7年 3 月 1 日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		各事業の利用人数に配慮しながら、十分な空間を確保するようにしています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	7		配置基準に基づいて適切に職員の配置がされています。また、安全を考慮し、必要があれば職員配置を多めにしています。	人数は足りているが、職種によっては足りていない時もあるので、引き続き他部署と連携を図りながら適切な職員配置を行います。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		部屋の構造がL字になっていて死角がでやすいので、職員間で声かけを行いながら、安全管理に努めています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	1	個別の部屋がないため、空間をパーティションで区切ったり、クールダウンのために離れた場所で過ごしたりしながら、安心して過ごすことができるように工夫しています。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	個人面談や朝礼などを通して、職員の意見などを把握する機会を設けています。	上司に相談したり、連絡を取り合ったりしながら、個人面談などで上がった意見を現場も把握できるようにしていきます。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	3	第三者委員の先生が評価を実施しています。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7			
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	1	厚生労働省より示されているアセスメントシートを使用し、アセスメントを行っています。	日々の行動観察については、利用された時の記録を残していますが、アセスメントにつながる記録を意識できていないこともあるため、記録の取り方について職員間で確認していこうと思います。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7			

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	2	即時確認が必要な内容については、支援終了後に振り返りをおこなっています。その他の内容については、翌日の朝に振り返りをし、共通理解を図っています。	引き続き、翌朝の時間を有効に使って振り返りを行っていきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	1		引き続き、日々の記録は個人別のファイルに記入し、支援の検証や改善点の必要があれば意見交換を行い、改善につなげていきます。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	6	1	その日の利用児さんの状況に応じて、基本活動を設定しています。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	2	やすらぎの児童発達支援から放課後等デイサービスに移行される利用者さんがほとんどのため、事業所内で情報共有を行うことができています。また、高学年や中高校生になってから利用開始される方に関しては、学校や相談支援専門員、医療機関と相互理解を図るようにしています。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	1	移行支援会議に出席し、他事業に移行する際の情報を提供しています。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	4	同施設内の個別療法士や心理士、相談支援専門員などに必要な時は、相談し連携を図っています。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		7		同施設内の他事業を利用されている子どもとの合同イベントを月に一度開催し、一緒に活動する機会を作っています。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	3		協議会に参加している職員からの情報を得るようにしています。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	4		つばさ学園で今年度よりペアレント・プログラムを開催しています。希望があればご案内していきます。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	2	5	月に1度のイベント開催時に、保護者や兄弟児にも参加してもらい、交流できるようにしています。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	1	契約時に、苦情対策委員の名前、連絡先をお伝えしています。現場に上がった苦情に関しては、迅速に対応し、必要があれば苦情対策委員に報告しています。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	2	利用希望表を使用し、行事予定を伝えるようにしています。また、つばさ学園のHPにて、日頃の様子をお伝えするようにしています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	1	情報の伝達については、伝えるタイミングや伝え方を職員間で検討し、個別に対応しています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	6		行事は開催しているが、地域住民は招待していないため、今後、検討していきます。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7				